全国建産連会長会議

入札・くじびき 不適切と国交省明言

地方公共団体対応に意見

25日に大分市で開かれた全国建設産業団体連合会（全国建産連）会長会議では、各建産連の代表者が、不良不適格業者排除に関する地方公共団体の対応、官公需法の堅持、くじ引き入札に変わる入札契約方式など、12課題を提案。来賓の松原文雄国土交通省大臣官房審議官や門松武技術審議官らから意見を聞いた。

提案のうち、不良不適格業者排除については、徳島県建産連が、①ダンピング防止のためにも発注者の責任で徹底的に排除②特に地方公共団体の対応について国交省が指導－などを要望。これに対し国交省は、「入契法の施行から2年が経過し、地方公共団体の取り組みは、前進しているものの十分でない」との認識を示した上で、「大きな問題がある場合は、個別に働き掛けることも検討する」と、より強く指導する考えがあることを示唆した。

千葉県建産連が訴えた、くじ引きによる落札者決定の問題については、「発注者としての責任を放棄している」とし、適切な入札・契約方式ではないとの認識を明言。

また、三重県建産連は、近年増加している市場単価方式について、「特殊な施工条件であるにもかかわらず、市場単価で積算されるため、変更が認められず請負業者の負担増となるケースもある」などと現行の積算方式などについて意見した。

このほか、前払金制度の廃止を検討する意向を表明した長野県の対応について、長野県建産連が、現在の同県の動きなどを報告。さらに国交省が試行する出来高部分払方式について、地域の中小建設業者にとっては、「調書の作成、検査の実施など事務量の増大などにつながり、結果的に受注者、発注者の両者の負担が増えるのではないか」と慎重な運用を求めた。

前払金廃止について国交省は、「これだけ普及・定着している中で、前払金廃止は乱暴な議論ではないか」との認識を示した。

県建設業協会鹿児島支部等パト

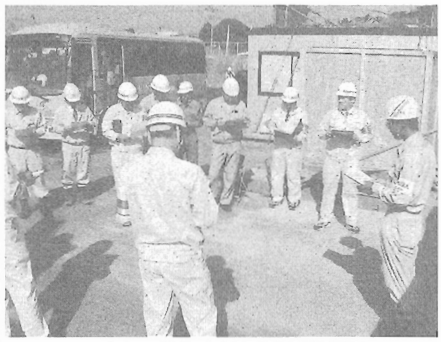
車両系の災害防止重点に

県建設業協会鹿児島支部・建災防鹿児島分会合同の15年度安全管理パトロールは26日、鹿児島市内と桜島の8現場で実施。車両系建設機械等、墜落・転落災害防止策などを重点に診断、現場を指導した。

出発にあたって幸加木輝征分会長が「過去数年間の災害発生データをもとに、四つの重点指導事項を決めてパトを行う。年度後半に向けて工事が集中する時期を前に、現場の安全指導を徹底して頂きたい」と挨拶。このあと3班に分かれ、会員施工の現場へ向かった。

このうち、1班は森山睦夫副支部長、諏訪園隆労務副委員長らと上ノ原勉鹿児島労働基準監督署次長、鹿児島市建設局職員で編成。かごしま文化工芸村（仮称）敷地整備、原田橋（仮称）橋梁整備などをパト。

同市常盤町の武武岡線道路築造（その11）の現場では、土工の中の掘削、土砂運搬、法面整正の工事を診断。会員らは現場事務所内の書類等の整備、KY活動の実施状況、安全通路と避難場所の確保、重機等の災害防止策、ダンプトラックの誘導と過積載防止策等々、詳細にチェックした。



現場代理人から災害防止策を聞く診断員
＝鹿児島市常盤町で

県建築協会青年部会 技術講習会

評点アップ目指し聴講

県建築協会青年部会（福永弘一部会長）は26日、鹿児島市の県歴史資料センター黎明館で「工事評価・格付け向上を目指して」と題した経営者のための技術講習会を開き、会員や従業員ら約180人が出席して評点アップにつなげる具体的内容や実例について学んだ。

会の冒頭、福永部会長が「より良いモノを造るために、皆さん日々努力を重ねていると思う。本日は評点アップを図るためのポイントなどをしっかり勉強して、仕事に役立ててほしい」と挨拶。

次いで、今回は講習会開催にあたり、事前に会員が常日頃持っている、監査に対する疑問や質問を募集し、県へ提出、当日回答をいただくことにしており、講演会の前に池添宏県土木部工事監査監が質問事項31項目に対し回答した。その中で、会員から「工事評価点数がよかった場合のメリットや悪かった場合のペナルティは」の質問に県側の回答として「メリットは、工事成績評定点が原則75点以上の工事は県土木部優良工事表彰、優秀技術者表彰の推薦対象になる。また、入札参加資格審査において技術事項評価点数の加点項目である工事成績点数が上がる。ペナルティは、65点未満の工事の場合施工会社の代表者等が県庁へ呼び出しを受け、総括工事監査監から指導を受けることがある」と説明した。

引き続き、講演会では、内村優男県土木部主任工事監査員を講師に、施工体制の現場代理人や主任技術者、施工状況、工程管理、安全管理等の評価及び評定内容をピンポイントに解説し、参加者はメモを取るなど、熱心に聴講していた。

施工体制の評定内容等が説明された講習会
＝鹿児島市の県歴史資料センター黎明館で

シックハウス対策講習会

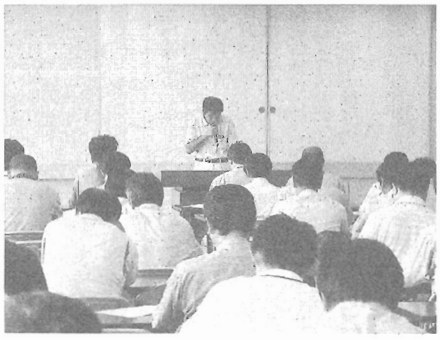
法改正と確認手続き周知

伊集院土木

県伊集院土木事務所は26日、日置郡伊集院町の伊集院合同庁舎でシックハウス対策講習会を開き、会日置・串木野支部の会員、建築行政担当者ら約110人が出席。冒頭、市来敬伊集院土木事務所長が「法改正に伴う申請書の作成要領を十分理解し、業務に活用して頂きたい」と挨拶、併せて完了検査の検査率向上に協力を求めた。このあと、3人の講師がシックハウス対策の概要、建築確認申請手続きの変更個所、住宅性能表示制度とシックハウス対策について説明した。

このうち、同事務所建築課の村永健二技術主査は、法改正に基づく内装仕上げの制限、ホルムアルデヒド発散建築材料の使用面積制限、換気設備設置の義務付け、天井裏の制限の説明と、施主への十分な説明など設計・施工時の注意点を指摘した。

また、同じく下大田国弘建築技師は建築確認関係を講義。確認申請書に使用建築材料表を追加することなどを説明した。



詳細な説明が行われた講習会
＝伊集院町の伊集院合同庁舎で

クリスタル鹿児島

ファイヤーレターデント 防燃水燃焼実験

燃焼抑制効果を証明

㈱クリスタル鹿児島（宮崎美弘社長、本社・揖宿郡喜入町）は25日、同社工場敷地内で県関係者らを招いて、ファイヤーレターデント防燃水の燃焼公開実験を実施。「燃えない木」という常識を覆す木材を目の当たりにした参加者らは、驚きの声をあげていた。

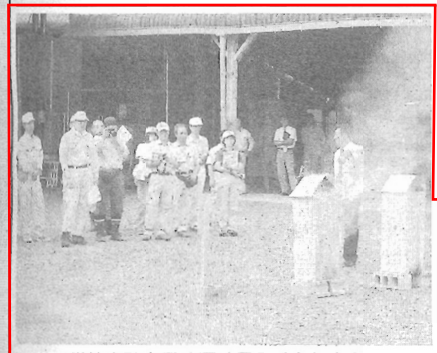
同防燃水は、木材に噴霧（または注入）するだけで、燃焼効率を著しく抑制する効果があるほか、木材が燃焼する際に必然的に発生する煙や有毒ガスも発生しない。また、防蟻効果にも優れ、白アリ抑止などの効果がある。

今回の燃焼公開実験には、喜入町消防署をはじめ、県鹿児島農林水産事務所、指宿農林、加世田農林、伊集院農林、熊毛支庁農林水産課の主幹担当者ら約35人が参加した。

午前10時、宮崎社長が同防燃水を取り扱うに至った経緯などを説明した後、工場敷地内の一角で燃焼実験を行った。参加者の喜入町消防本部の北園美巳消防司令補は「煙も出ないし燃え難い、非常に画期的な製品だと思う。今後も更なる改良を加え、より多くの方の生活に利用されることを期待したい」と語った。

また、当日は関連製品として、噴霧するだけで芝・植木・草花などが見違えるように生育する土壌活力剤「グリーンサポートワン」とヤスデ・ムカデなどの不快虫などに噴霧するだけで死滅させる不快感爬虫類退治液「バイヤスチン」も展示され、販売元の㈲メンテナンス緑興の南実治氏から両製品について説明もあった。

なお、同防燃水は「不燃防燃水」としての基準をクリアした製品として、近く国土交通省の認可を受ける予定となっている。



燃焼実験を興味深く見入る参加者ら
＝喜入町の現地で